

園長コラム

春は出会いと別れの季節。年長さんも卒園だと思えば、寂しい気持ちが溢れます。私達大人にとっては、こども達が身近にすることで、心が沢山動かされる機会に出会えます。いつもにまして3月はこども達に感謝を感じる季節と言えるかもしれません。

幼稚園や保育園の時期は、家庭と言う最も小さな社会の単位から、もう一つ大きな社会に慣れ親しんでいく時期でもあります。自分以外の他人と過ごすというのは楽しいことばかりではありません。我を押し通すことはできないし、他人の意見も聞かなければなりません。集団にはルールがあり、それを皆で大切にしないといけない。「みんな仲良く」は理想ですが、それは努力なくして得られるものではありません。

そういった環境はこども達にとって適度な負荷となり、感情を豊かにし、心を強くしてくれます。集団生活と言うものは、次第に学業やスポーツ、仕事等の「成果」を目指す集団になっていくと言えますが、幼児期に大切にしたい集団はそこではありません。今だからこそ、人と心が通じた喜び、人と一緒に何かを取り組んだ時の楽しさ、そして、それらを得られるまでの苦労や葛藤を沢山感じてもらいたい。

そんな体験を東園でしてきた年長さんが、今年もまた卒園していきます。これからどんな風に成長していくのか、どんな大人になるのかは分かりませんが、自分のことを大切に認めることができる人になって欲しいと願っています。

0～2歳児クラスの1か月

手本になるのは

食事は栄養や喜び以外にも、食べ方やマナーなどの生活自立に繋がっていく、人が覚えなければならない大切なものです。その中に咀嚼も含まれるのですが、このような情勢のため、保育者が咀嚼を促すモデルになれません。今の時代、親しか咀嚼のモデルとなってあげられる人はいないのかもしれませんが、子育てでやらなければならないことは沢山ありますが、その一つに加えて頑張ってください。



遊びの中から

年間を通して指先を使った遊びを沢山取り入れてきたこともあり、こども達は上手にノリを使ったり、シールを張ったりすることが出来るようになってきましたね。こうした遊びがスプーンやお箸の上手な持ち方にも繋がっていくんだなと思うと、保育の大切さや面白さを感じさせられます。ご家庭でどんな遊びをしているのか。そんな話ができる場所があってもいいなあと思う今日この頃です。



3～5歳児クラスの1か月

自分の庭

こどもって高いところが好きなんですよね。かくいう私も高いところによく登っていました。当時の萌丘幼稚園には縄梯子がかかった檜があり、とても楽しかったことを覚えています。年長さんにとっては東園の園庭で毎日遊べるのもあと少しです。思い切り遊んでほしいと思います。入園した頃とは違って、自分の庭のように遊んでいるこども達を見ると、家族の一員が増えたような気がしていつも嬉しくなります。



思いを言葉にしてみよう

年長さんが卒園記念制作の手づくり絵本を制作していました。先生たちとどんな話が
良いのか、どんな言葉が良いのか等、一緒になって話し合いながら作っていました。
毎年楽しみに読ませてもらっており、どの絵本もこども達の等身大の姿が絵本から感
じられていつもほっこりさせられます。入園した頃からこども達の東園で培った体験
や成長がぎっしり詰まった絵本。ご家庭でも一緒に読んでください。



マラソン大会

毎朝、理事長とマラソンと体操をしてきたこども達。2～5歳児クラスのこども達が
参加して園内で実施しました。年長さんは1km近い距離もあるということで、辛そ
うな様子も見られましたが、全員が完走。真剣な表情に胸を打たれました。蔓延防止
中の園内実施ということで残念でしたが、最後まで走り切ったひがしっ子たちでした。

